

静岡県立高等学校の在り方に係るグランドデザイン（志榛地区）

1 要旨

志榛地区の県立高等学校の在り方について、地域協議会での協議を踏まえ、グランドデザインを策定した。

○スケジュール

時 期	内 容
令和7年 3月 26日	第1回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
令和7年 7月 29日	第2回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
9月 29日	第3回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
12月 22日	第4回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
令和8年 3月 17日	第5回県立高等学校の在り方に係る地域協議会（グランドデザインの検討）

2 グランドデザインの概要

- ・多様な特徴を有する本地区において、多様性と持続可能性を実現できる学校体制や教育環境を中長期的な視点で再構築する

(1) 目指す人物像

○以下の力を備え、地域内外の他者とのつながりを通して地域の未来を創る人

- ・発見する力（多角的な視点を持ち、現状の課題や問題を発見する力）
- ・挑戦する力（自分自身の将来の夢や希望を持ち、前を向いて挑戦する力）
- ・協働する力（周囲の人を助けたり、助けを求めたりして、すすんで他者と協働する力）
- ・乗り越える力（柔軟性やレジリエンスを備え、人生で直面する壁を乗り越えていく力）

(2) 生徒の学びのイメージ

- ・多様な他者と出会い、コミュニケーションを取り経験を積み、自己を高める学び
- ・確かな学力や技能を身につけ、それを高校卒業後の進路実現につなげる学び
- ・地域や社会の課題に関心を持ち、解決に向けた糸口を探る探究的な学び
- ・時代の流れを読み、現状を改善するための新たなチャンスをつかみ行動できる学び
- ・他者の置かれた状況を理解し、協力し合ってより良い暮らしを実現する学び

(3) 改編（再編整備）の方向性

- ・全日制において、令和21年度頃までに本校7校程度の適正規模の公立高校へ段階的に改編
- ・地区内の配置バランスを踏まえ、1クラスとなった学校は分校とし、人口減少に応じた将来の再編も視野に入れる
- ・校地の選定については、生徒の通学可能範囲等を考慮して適正に配置
 - ①北榛・榛南地域の高校については、進学想定生徒数や校地等を検討し、速やかに個別協議を行う。
 - ②志太地域の高校については、現状の学校機能を維持しているうちに具体的構想を検討し、地域の特性を踏まえながら、速やかに必要な再編に着手する。

(4) 今後の対応

各学校におけるグランドデザインの具現化については、各市町・学校と詳細な協議を行った上で決定する。

併せて、中学生やその保護者、中学校の教員に対して、適宜情報提供等を行う。

志榛地区〈県立高校〉のグランドデザイン

【課題認識・全県】

- 少子化が進行する中での高校の改革（配置と規模のあり方など）
- 変化の激しい時代を生き抜く力の育成

【課題認識・志榛地区】

- 本地区全体の中卒者数は令和20年までに約65.8%に減少見込
- 本地区生徒の流入は流出超過の状態（R6流入279人、流出827人）
- 北榛・志太・榛南の各地域で学齢期人口や通学手段等の状況が大きく異なる

【高校改革の基本認識・全県】

- 行ける学校から行きたい学校へ、画一から多様へ（学びの変革）
- 地域・実社会と共にある学校（開かれた学校づくり）
- 時代の変化を踏まえた教育基盤（学校の配置・規模等）

【高校改革の基本認識・志榛地区】

- 多様な特徴を有する本地区において、様々な生徒を引きつけることができる県立高校を設置する
- 多様性と持続可能性を実現できる学校体制や教育環境を中長期的な視点で再構築する
- 発達障害、不登校、外国につながる生徒を含む、特別な支援が必要な生徒への対応を充実させる

【目指す人物像】

- 以下の力を備え、地域内外の他者とのつながりを通して地域の未来を創る人
- ・発見する力（多角的な視点から物事の本質を見極め、現状の課題や問題を発見する力）
 - ・挑戦する力（自分自身の将来の夢や希望を持ち、前を向いて挑戦する力）
 - ・協働する力（周囲の人を助けたり、助けを求めたりして、すすんで他者と協働する力）
 - ・乗り越える力（柔軟性やレジリエンスを備え、人生で直面する壁を乗り越えていく力）

【生徒の学びのイメージ】

- ・多様な他者と出会い、コミュニケーションを取り経験を積み、自己を高める学び
- ・確かな学力や技能を身につけ、それを高校卒業後の進路実現につなげる学び
- ・地域や社会の課題に関心を持ち、解決に向けた糸口を探る探究的な学び
- ・時代の流れを読み、現状を改善するための新たなチャンスをつかみ行動できる学び
- ・他者の置かれた状況を理解し、協力し合ってより良い暮らしを実現する学び

【具現化のための方策】

【学びの変革のあり方】

- 生徒の成長を生涯にわたって支える「生きた学び」の提供
 - ・志榛地区の地域特性を踏まえた学科・コースの検討
 - ・地域や社会にある「実物」の資源を活用した探究的な学びの充実
 - ・生徒が自分らしく輝く力を育むキャリア教育の展開
- すべての生徒が社会で生きていくことを念頭に置いた、個に応じた支援の実践
 - ・高校での学びに支援が必要な生徒も県立高校で資質・能力を伸ばせるような受入・支援体制の充実（通級指導教室、日本語支援など）

【地域との連携のあり方】

- 地元を愛し、将来さまざまな場所で活躍できる人材の育成
 - ・地域行政機関や地元企業でのインターンシップ、地域課題解決型プロジェクト学習などの充実
 - ・郷土への愛着とグローバルな視野の両方を育むための、多面的な学びの展開
- 実学系人材育成における関係機関の専門性の活用
 - ・地域行政機関、地元企業、大学などが持つ最先端の施設や技術の実学的な学びへの活用

【教育基盤のあり方】

- 多様性と持続可能性を実現できる教育環境の整備
 - ・北榛、志太、榛南の各地域の特性を踏まえた県立高校の設置（全日制においてR21頃までに本校7校程度の適正規模の公立高校へ段階的に改編）
 - ・学校間・学科間連携や地域行政・産業界との連携の検討、遠隔授業などの実施
 - ・高校教育に求められる機能を地区全体で網羅する機能分担型の学校配置
- 多様な生徒の興味・関心に応じた学びを支える三部制の単位制定時制高校を設置

志榛地区〈県立高校〉のグランドデザイン

イメージ

目指す人物像

○以下の力を備え、地域内外の他者とのつながりを通して地域の未来を創る人

発見する力

挑戦する力

協働する力

乗り越える力

学びのイメージ

- ・コミュニケーションを通して自己を高める学び
- ・確かな学力や技能を身につける学び
- ・地域・社会課題解決のための探究的な学び
- ・新たなチャンスをつかみ行動できる学び
- ・他者と協力し合ってより良い暮らしを実現する学び

地域特性を生かした多様性と持続可能性の実現

- ・多様な学科・コース
- ・個に応じた生徒支援
- ・地区内高校の機能分担
- ・遠隔授業
- ・産業界との連携
- ・地域行政との連携

北榛(新たな枠組での分校化)

○県を越えた仲間とともに地域資源から深く探究する学び

志太(6校程度)

- アカデミックな専門性を高め、高等教育につなげる学び
- 暮らしの質を高め、より良い社会を自ら創造する学び
- 異文化を理解し、他者とともに豊かに生きる学び
- 地域の産業の担い手となる専門人材を育成する学び

榛南(1校)

○グローバルリーダーや地域リーダーとして未来を切り拓く学び

※多様な生徒の興味・関心に応じた学びを支える三部制の単位制定時制高校を設置